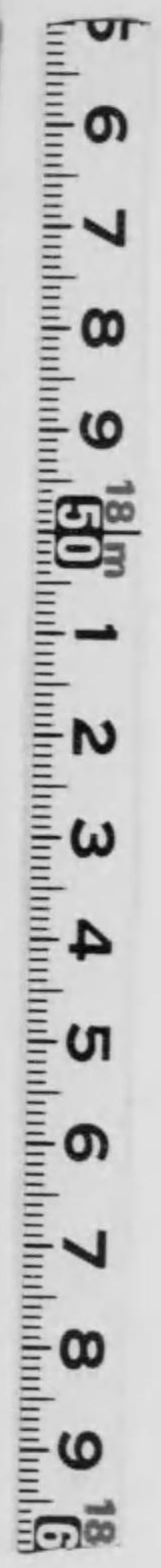


11
7
280

人倫訓義彙

六



始



一、おとあつりしつゝ人の居一
 二、きこふをたふとあつてあつた
 三、な子いほはつてはあつた
 四、あつたはつてあつた
 五、あつたはつてあつた
 六、あつたはつてあつた
 七、あつたはつてあつた
 八、あつたはつてあつた
 九、あつたはつてあつた
 十、あつたはつてあつた



一、あつたはつてあつた
 二、あつたはつてあつた
 三、あつたはつてあつた
 四、あつたはつてあつた
 五、あつたはつてあつた
 六、あつたはつてあつた
 七、あつたはつてあつた
 八、あつたはつてあつた
 九、あつたはつてあつた
 十、あつたはつてあつた



下をこぼし又代を走らば

さしりえとや **柄杓師**

小振持の柄に表を

よりぬり所は麻柄をも

外をやりぬくあり

天枰 塙よりつと

代十又又下二あるり

各所塙と三もあ

与十多松原室所

板八橋筋にあり

十女分柄はると

舟橋塙夜は

白根町三河月

板町一丁の

み女と六百月

代十あるあり

柄杓師 後と

ゆと柄り又ハ

と後と三

任氏 **鏡師**

を林に



天枰



柄杓師



鏡師



鏡師

長所石指をかり熱心と
 ねんりの孫小今の橋本の
 板の長福とらへものかりじ
 りとるや富比板本を出水
 通九生果物中流あをやをた
 柳の場ゆとやう物とあふ
 あり **後師** 角太の又魚
 女又れ能くう能と能なり
 まるばるいんいんう回
 作だの能くうと能うとるあ
 同あまの味すの能くうとる

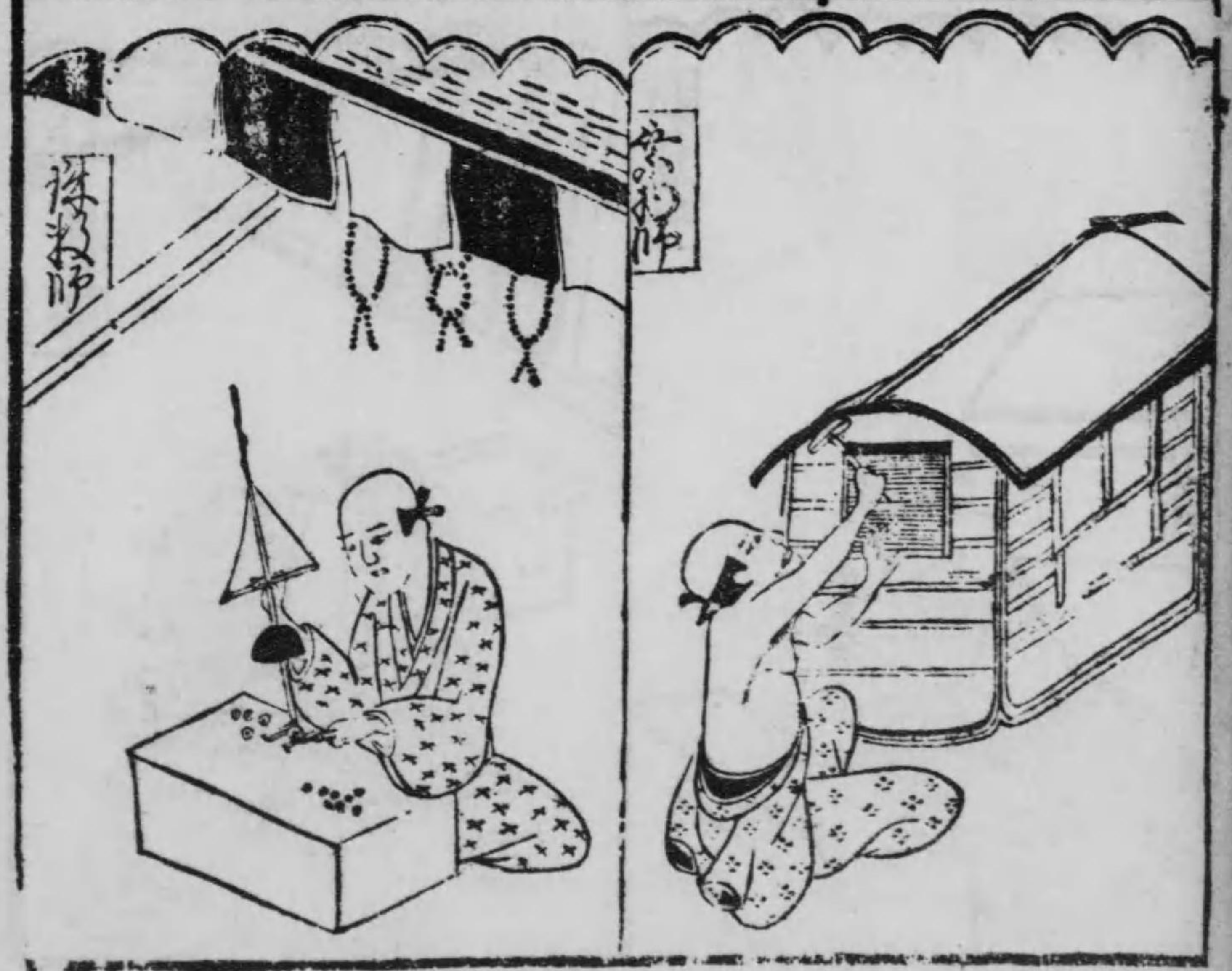


長所石指をかり熱心と
 ねんりの孫小今の橋本の
 板の長福とらへものかりじ
 りとるや富比板本を出水
 通九生果物中流あをやをた
 柳の場ゆとやう物とあふ
 あり **後師** 角太の又魚
 女又れ能くう能と能なり
 まるばるいんいんう回
 作だの能くうと能うとるあ
 同あまの味すの能くうとる



日中にておぼろげな月
 光と保つてや **備忘** 南
 とていふとくらゐの母
 思ひ立能くおぼろげなり

松物師 一切の木具曲物
 お修繕も松栴檀木と
 送致もくまはせと **栴檀師**
 栴檀木をとりいでられ
 とらへるも栴檀ありん松栴
 とていふつは栴檀師所
 木系松ありり小まはせに



松物師 男女の衣箱
 さらさらの木の板
 休養をせしむる所
 立寄る上は木の板
 大板の板はよそと違ふ
 かるき松栴檀用か
 休んばたのいふと違ふ
松物師 松をせしむる
 松栴檀の板
 切懸はわりの板の百八
 松栴檀の板



下へは御座り
 普請師下地
 をはらひ使儀テなりきりきり
 室所を二重のどしとてきり
 是後 庵をりつてきり
 或は現は目付にては同村の
 へりてきりきりきりきり
 又同様のきりきりきり
 又小児のきりきりきり
 ちりきりきりきり



横の房板よりやきりきり
 へ網代差行とてきりきり
 出たてきりきりきりきり
 けいけいきりきりきり
 つらきりきりきりきり
 横師 文をふわり目付
 推古天皇はきりきり
 やきりきりきりきり
 丁柄金具のきりきり
 くらきりきりきりきり
 外寸七分八厘五分



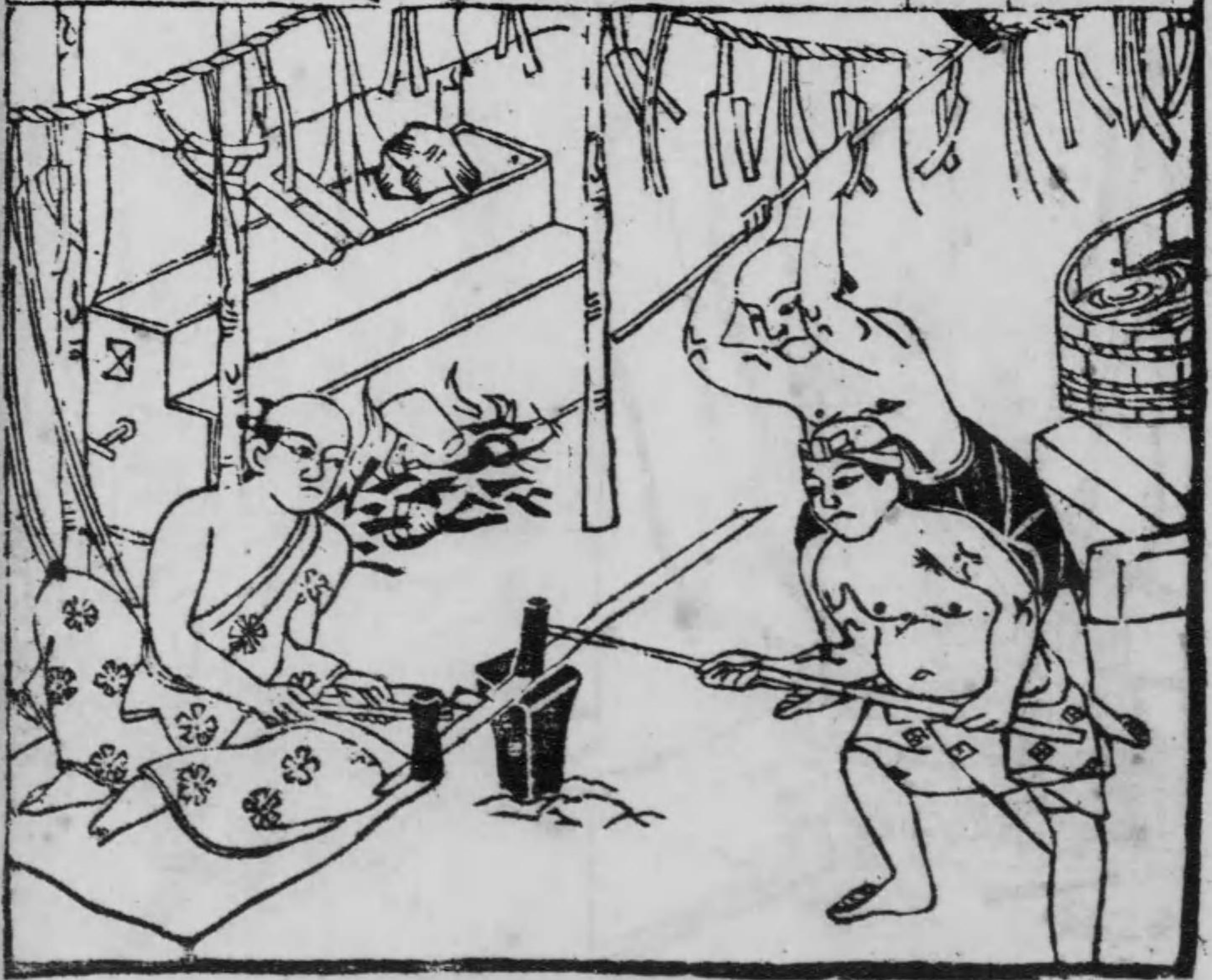
後金 餅子野 餅家
 徳川これと道々ふれ松本
 へ 師 匠
 眼と舌と海へ智恵とを
 くらや徳園もらふ名ありて
 けふの世に化も門へ入
 ふわりの系成師ありて
 塔城もも推名ありて
 風雲此術るるくありて
 くらやそれありてありて
 けふの世にわりのと
 師 匠



くらや徳園もらふ名ありて
 けふの世に化も門へ入
 ふわりの系成師ありて
 塔城もも推名ありて
 風雲此術るるくありて
 くらやそれありてありて
 けふの世にわりのと
 師 匠



刀渡法 刀渡法は、和作法とて、
 ちとて、天國新島始
 甲のう
 刀渡法は、必よ名取家
 一系よて、八月廿日、
 越前守、安守、友、東、全、及
 和泉守、全、道、在、江、守、源
 久、道、丹、波、守、若、道、越、守、若
 正、俊、倍、流、守、佐、若、何、也、也
 菊の御紋と銘と切之
 此刀渡法 文殊即也重
 七丁渡法 伴、安、守、若、貞



刀渡法 刀渡法は、和作法とて、
 ちとて、天國新島始
 甲のう
 刀渡法は、必よ名取家
 一系よて、八月廿日、
 越前守、安守、友、東、全、及
 和泉守、全、道、在、江、守、源
 久、道、丹、波、守、若、道、越、守、若
 正、俊、倍、流、守、佐、若、何、也、也
 菊の御紋と銘と切之
 此刀渡法 文殊即也重
 七丁渡法 伴、安、守、若、貞

刀渡法 刀渡法は、和作法とて、
 ちとて、天國新島始
 甲のう
 刀渡法は、必よ名取家
 一系よて、八月廿日、
 越前守、安守、友、東、全、及
 和泉守、全、道、在、江、守、源
 久、道、丹、波、守、若、道、越、守、若
 正、俊、倍、流、守、佐、若、何、也、也
 菊の御紋と銘と切之
 此刀渡法 文殊即也重
 七丁渡法 伴、安、守、若、貞

勢津も有度 授七葉

小刀鞭治物者も金義稿

值金義 小刀授抄刀

東山伯深志素平理忠六

和音伝山城必春平比介

而もよりの刀柄持小刀也

一まう守 琴師 琴の心

うりのまうまうとよむと

可哉選だてと縁縁同敷之

玉所一条とんまの巻を三条

とんまをばか所とよま

既迄の末洞院仏光とん所

長門内記 弓師 弓

物そし非切伝又とん選

伝の四時八百あゆ神作と

物作仕移りて業の弓よ

りこのまよて教とりのほ

しゆつとま所松本ら

下よありゆら月更

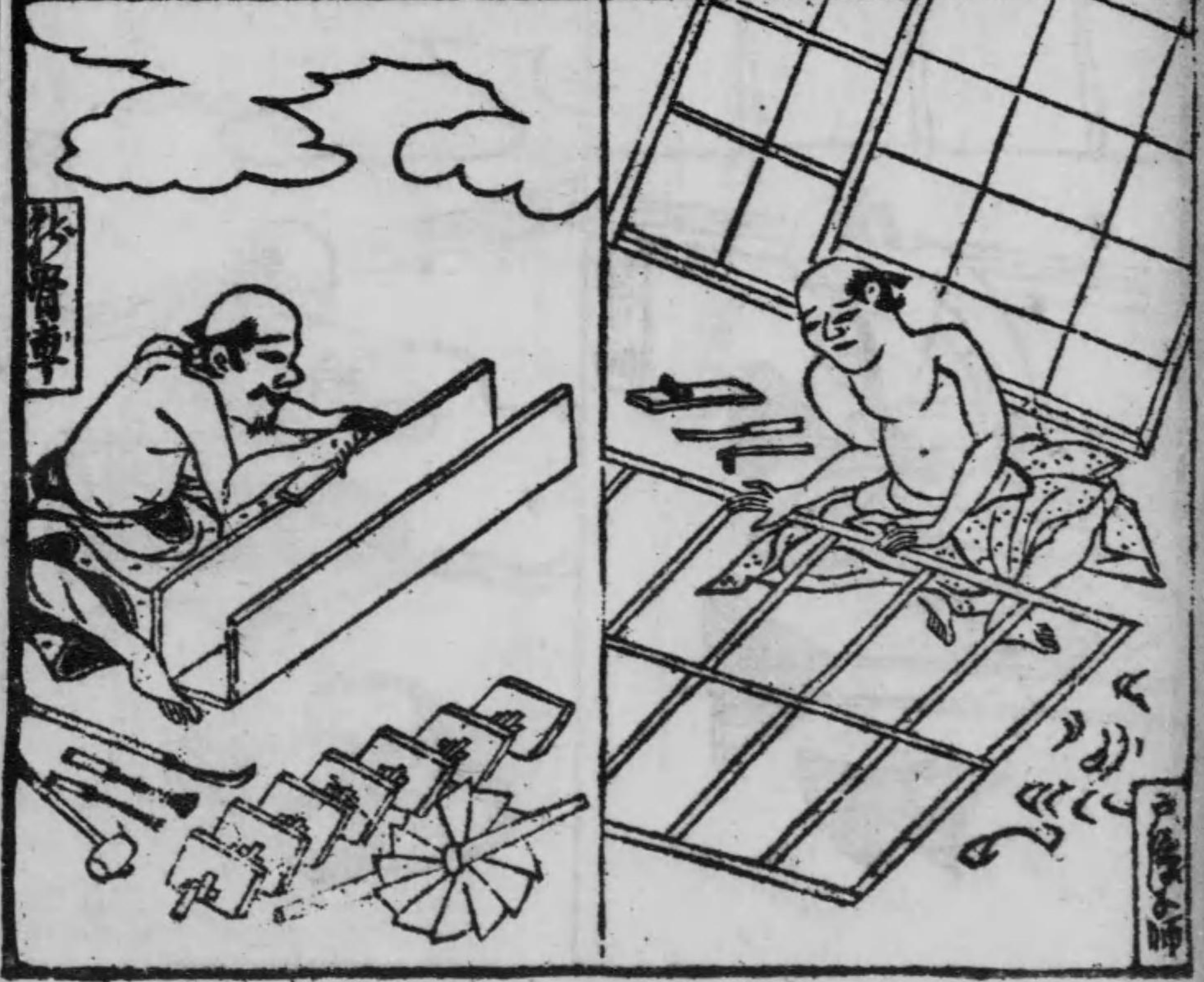
佛興師 くりのりて伝

れに眞意金仏為徳を絶

業獨出あくとねと造り又



かくすくすく...
 まよと掃...
 のく...
 川...
 く...
 相...
 後の...
 車...
 と...
 め...
 ん...



仕...
 又...
 綿...
 一...
 機...
 柄...
 竹...
 と...
 検...
 車...
 倦...



一系ゆかに茶漬師のゆか
 わりゆかに茶漬師ゆか
 より角あり **茶漬師** け
 は茶漬師ゆか
 色上京石川屋 **茶漬師**
 富山山神ゆか **茶漬師**
 の家仲出ゆか **茶漬師**
茶漬師 ゆか **茶漬師**
 洗物ゆか **茶漬師**
茶漬師 天竺の茶漬師ゆか



極まこれをして **茶漬師**
 加の白の男柱 **茶漬師**
 槌換 **茶漬師**
 ぬのあり **茶漬師**
 湯 **茶漬師**
 くと **茶漬師**
 人の月 **茶漬師**
茶漬師
 款 **茶漬師**
 下 **茶漬師**



田舎の餅屋よりより大糸
 のちのちの餅屋よりより大糸
 餅師 伊予大和の三輪
 地をうめんといふ
 菓子師 杖の杖菓子
 羊羹 饅頭の饅頭
 蕎麦切の蕎麦切
 一々國をうつつあり二口
 能登虎やせほこみ水ま
 餅師 大糸の



おふいせえ大糸餅と
 三十度又の甲子女あり
 餅師 伊予大和の三輪
 餅師 大糸の



と仰るはよび細くありて
 只おしり柄糸の打中
 同女のお他より **着**
 操惟は後の針金と
 て針もかみあり
 とめられぬもつら
 大将多の人

縫 縫師とつら
 一は縫師はつら
 けるは縫師はつら

て縫ませとつら
 わらうとつら
 水汲のあつら
 坪のまつら
極座草師 虎の草
 知るなり為丸
 少なり **香**
 洞二糸の下に
 あり **虎**
 裏折しり
 てつら



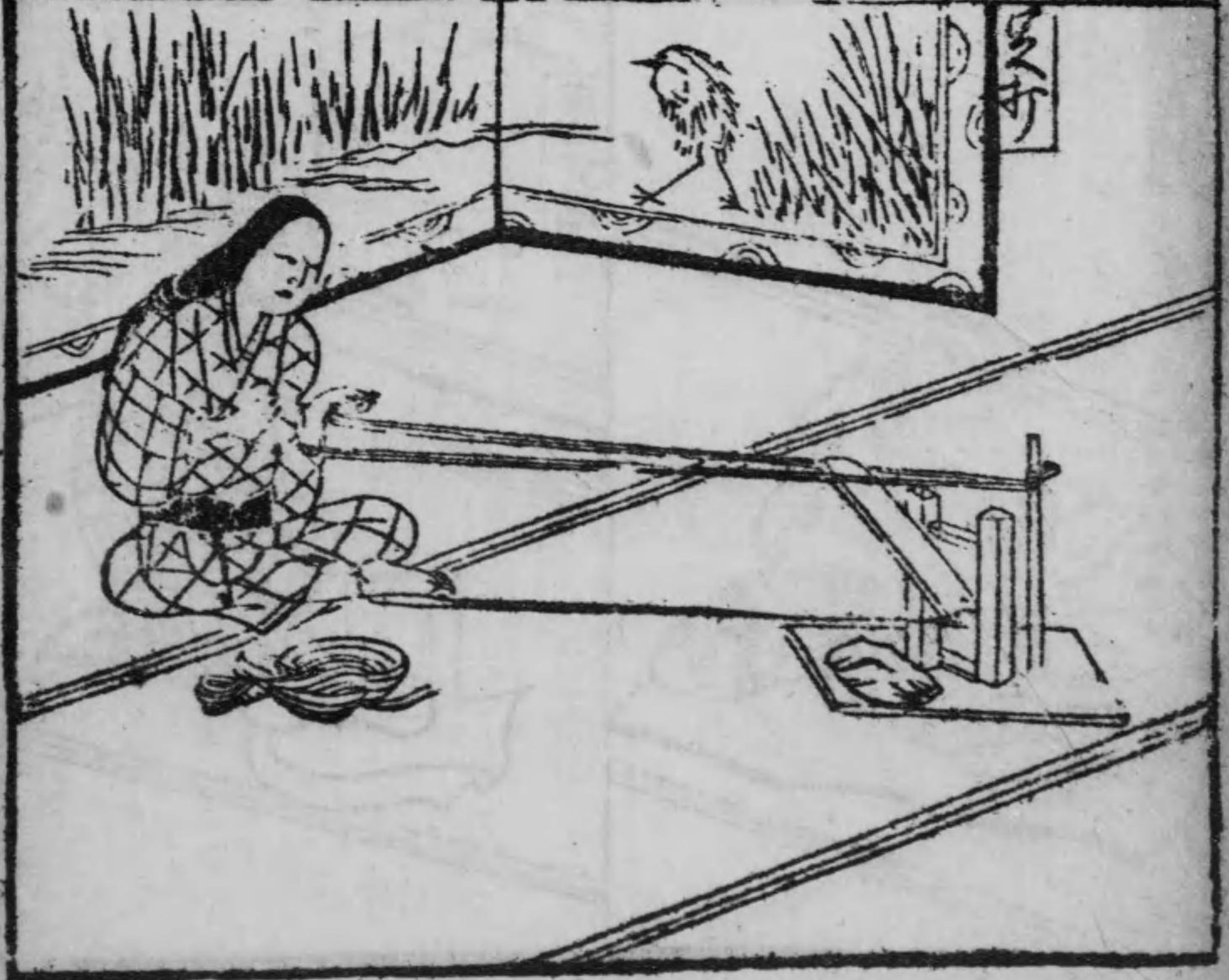
練師 洗糸の三度まで
 して人金の糸をねじ換と
 してくらの井かけ織を金力
 も同じ織あり **洗糸** や
 一切の洗ね織めらとみの
 わらとのふらとすのあり
 又はや解す本母つけあり
 洗ね織あり **洗糸** 万
 洗ね一切のよとれらと
 のりこしらへ消るる炭と
 あくは糸力との目やわら



いをくは **織** 掃 帽子織
 小袖中入るこことつむむの
 業のくもとを女又の小袖
 めれね織めてほね織あり
 してはかまけありけよさ
 らしくえゆわのけいこさ
掃織 春丸丸夜ちよりわ
 くすくすの沙後純子とみ
 毛織のたらいめつとらと
 羽ありけ織人おほく
 織い男女のね織あり又



だんごのついでにうらなひをかき
 うらなひのついでにうらなひをかき
 てうらなひのついでにうらなひをかき
 のついでにうらなひをかき
 とわさるるよ あむし
 ちかへは馬とわさるるよ
 次統のついでにうらなひをかき
 ようとついでにうらなひをかき
 とついでにうらなひをかき
 ようとついでにうらなひをかき
 二葉もり三葉のついでにうらなひをかき



かつし あむし
 うらなひのついでにうらなひをかき
 ちかへは馬とわさるるよ
 次統のついでにうらなひをかき
 ようとついでにうらなひをかき
 とついでにうらなひをかき
 ようとついでにうらなひをかき
 二葉もり三葉のついでにうらなひをかき



よみいりち町よわり
 食珍仰 死人の死骸とつ
 死物とせむる海軍あり
 今町よわり人もの一せのま
 りわく一老かたのこころに
 はせえく一死てかよま
 の死かひしつた後にも
 とおさしつたもの六食珍
 とせむる紙とつたむも
 ぐら意地のまのこころに
 くりつた物と今もの死
 の入と物とく



終

